

第3章 生き活きと働けるまちづくり

⑪ 農林水産業の振興

細施策 28

農林水産業を支える基盤の整備充実と保全

● 農業の振興と基盤整備

● 林業の振興と基盤整備

● 水産業の振興と基盤整備



現状と課題

農業では、水稲や大豆、麦、そばをはじめ、全国的にも高い出荷量を誇る花はすや福井梅など特産品の生産が盛んに行われていますが、農業者の高齢化や担い手の後継者不足など、農業に携わる人は減少傾向にあります。また、鳥獣害による農作物の被害の増大や、中山間地域の耕作条件の良くない農地の荒廃化が進んでいます。

豊かな農地と農業を将来にわたり守っていくため、少ないコストで管理のしやすい農業基盤を整備することや、住民の皆が自立的に地域の農地を守っていく体制づくりを行うことが必要です。

林業では、外国産木材の輸入などによる価格の低迷、林業従事者の減少など、林業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。また、森林環境や里山の景観に影響を及ぼす病害虫による森林資源の被害も問題となっています。

優良材の生産、間伐材の利用促進のため、作業路網の整備など、基盤整備を引き続き実施していくことが必要です。

水産業では、設備の近代化や稚貝や稚魚の放流などの資源管理型漁業の推進、水産物の商品力の向上などの取組みにより、若い世代の就業者が増えつつあります。

今後ともこうした取組みを推進するとともに、海洋資源の保護と増殖を図るため、漁礁の設置を進めることが必要です。

一方、漁業関連施設の老朽化が進んでいることから、今後は、施設の長寿命化を図ることも必要です。



目指すまちの姿

- ◆ 農業への誇りと愛着を育み、農業・農村の恩恵を豊かに感じることのできるまち
- ◆ 森を守り、森からの恩恵を享受できるまち
- ◆ 郷土の海への誇り・愛着を育み、豊かな海洋資源と水産業の恩恵を感じることのできるまち

《柱とする施策の指標》

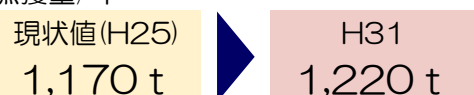
- 主要農産物（水稲、大麦、大豆、そば）生産量



- 林業施業面積



- 漁獲量/年



計画達成のために取り組むこと

<農業の振興と基盤整備>

① 集落営農の組織化・法人化の支援

地域ぐるみで営農活動に取り組むことができるよう集落営農組織の育成および法人化を推進します。

② 農業後継者の確保・育成

担い手農家・兼業農家を問わず、次代を担う農業後継者の確保・育成に取り組みます。

③ 農地の保全活動支援と耕作放棄地の抑制

地域ぐるみでの農地保全活動を支援し、耕作放棄地発生抑制と、農地保全意識の高揚を図ります。

④ 農地の利用集積の促進

農地中間管理機構を通じた農地の利用集積を促進します。

⑤ 安定的な農業経営に資するための基盤整備

施設の維持・管理の省力化を図り、安定的な農業経営を図るため、計画的に農業生産基盤を整備します。

⑥ 断続的な鳥獣害対策の実施

地域と連携の取れた鳥獣害対策を実施します。



<林業の振興と基盤整備>

① 造林事業の推進

健全な森林の造成と保育のため、枝打ちや除間伐事業を実施します。

② 間伐事業の推進

森林整備計画に基づき、間伐事業を推進します。また、木質ペレット※1や漁礁、CLT※2（クロスラミネーティッドティンバー）工法における材料など、間伐材を有効に活用していくための調査研究や市場の開拓などを図っていきます。

③ 作業道（路）の整備

間伐経費を抑制し、搬出を円滑に行うため、作業道（路）の整備を支援します。

<水産業の振興と基盤整備>

① 水産業の振興

水産物の商品力を高めるとともに、体験漁業などを通じて漁業の魅力を発信し、水産業の活性化を図ります。

② 資源管理型漁業の促進

継続的に稚貝や稚魚を放流し、資源の維持と漁業経営の安定化を支援します。

③ 漁港施設の機能保全

漁港施設を計画的に保全管理し、施設の長寿命化に努めます。

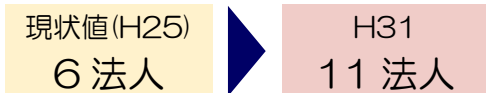
④ 漁礁の設置

漁業資源の保護と増殖を図るため、計画的な漁礁の設置を進めます。

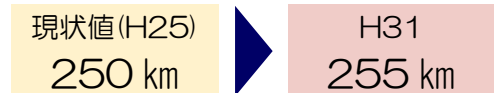


《目指す指標》

- 集落営農の法人化の推進／集落営農法人化数



- 鳥獣害対策の推進・拡充／電気柵の設置距離



- 耕作放棄地の抑制／耕作放棄地面積



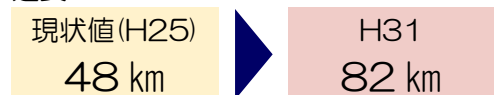
- 間伐事業の推進／間伐材搬出量/年



- 農用地利用集積の促進／利用集積率（利用権設定）



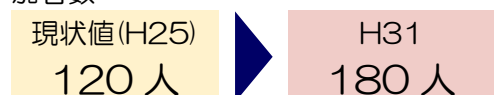
- 作業道（路）の整備／作業道（路）の総延長



- 地域による農地保全活動の拡大促進／多面的機能支払制度対象農用地

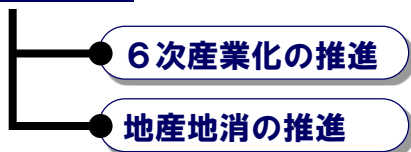


- 水産業活性化と情報発信／体験漁業参加者数



※1 木質ペレット：おが粉やかんな屑など製材副産物を圧縮成型した小粒の固形燃料のこと

※2 CLT：クロス・ラミネーティッド・ティンバーの略で、欧州で開発された工法。CLTは板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネルのこと。一般的によく知られている集成材は、張り合わせる板の繊維方向が平行方向であるのに対し、CLTは繊維方向が直交するように交互に張り合わせていく



現状と課題

地元食材の商品価値を高め、地場産業の安定化を図る6次産業の取組みとして、生産者による直売所やレストランの運営、水産業従事者による民宿や水産加工品の販売などが行われています。

現状では、個々の団体の活動による部分も大きいことから、個々の団体のネットワーク化、活動の底上げに取組み、活動の輪の拡大、地域の活性化につなげる必要があります。

各地域に直売所を設置し、地元の農産物や水産物、加工品の販売を続けてきたことで、安全安心な食材として住民の認知が高まり、広く流通しています。また、各家庭の食卓だけでなく、小中学校、福祉施設の給食食材としても安定的に供給されています。

今後は、関係機関との連携を強化し、創意工夫を図りながら活動を継続していく体制づくりが必要です。

目指すまちの姿

- ◆ 地元食材を用いた加工品を生み出す過程の中で交流が生まれ、地場産業が活性化することで生活が豊かになるまち
- ◆ 四季折々の地元の食材、食文化の普及により、地域間の交流を促し、郷土への愛着を育むまち

《柱とする施策の指標》



計画達成のために取り組むこと

<6次産業化の推進>

① ネットワーク会議の設置

事業者間・地域間の連携を図り、6次産業化*の活性化を図るため、ネットワーク会議を設置し、情報交換や新たな活動に関するアイデアなどを出し合い、活動の充実を支援します。

<地産地消の推進>

① 地場農林水産物の販売支援

地元でとれる農林水産物の販売を支援します。

② 小中学校給食食材の安定供給の支援

地元小中学校の学校食材として、地場野菜などが安定的に供給されるための生産活動を支援します。



*6次産業化：第1次産業（農林水産業）の従事者による第2次産業（製造加工）や第3次産業（卸・小売・サービス）への取組みや、第2次産業の従事者による第1次・第3次への取組みなど、それぞれの産業が有機的・総合的に連携することで新たな付加価値の創造や農山漁村の活性化につながるという概念。1次産業×2次産業×3次産業＝6次産業という意味

12 商工業の振興

細施策 30 商工業の振興

魅力ある店づくり

現状と課題

商工会の育成や組織強化に対する支援、融資制度の創設による経営強化に対する支援の実施により、地域特性を活かした魅力ある店づくりを進めています。地域における商工会の役割を明確にし、エリア全体が活力と魅力にあふれた商店街となるよう、経営強化を図っていくための支援や新商品の開発に対する支援が必要です。

目指すまちの姿

◆ 近くて便利な商店があり、人と人との繋がりを感ずることができるまち

《柱とする施策の指標》

- 商工事業者の売上高



計画達成のために取り組むこと

- ① **商工会支援事業**
商工会に対して支援を行います。
- ② **中小企業経営安定資金融資事業**
中小企業者に対し設備資金や運転資金を融資します。
- ③ **企業設備近代化資金利子補給事業**
企業に対し、設備の近代化に要する資金貸付金の利子補給を行います。
- ④ **小売商業設備近代化資金利子補給事業**
小規模商業者に対し、設備の近代化に要する資金貸付金の利子補給を行います。
- ⑤ **中小企業経営安定化資金利子補給事業**
中小企業に対し、経営安定資金の利子補給を行います。
- ⑥ **産業物産フェア開催への支援**
地場製品のPR活動を展開するため、産業物産フェアの開催を支援します。



《目指す指標》

- 商店の元気力アップ/商工事業者の売上高
現状値(H25) 19,873 百万円 → H31 19,900 百万円
- 商店の元気力アップ/融資制度の利用件数
現状値(H25) 50 事業所 → H31 55 事業所

● 企業誘致と起業の促進

現状と課題

空き工場の活用による企業誘致事業を展開しており、平成24年度と25年度にそれぞれ一件ずつ、県外事業者の植物工場を誘致しています。

また、認知症対応型共同生活介護事業所を誘致し、平成27年開業に併せ、町内を中心に職員の募集が行われるなど、福祉分野での雇用の裾野が広がりつつあります。

工業団地の造成は実施していませんが、空き工場の活用だけでは企業が求める規模や形状などに合致しない場合もあるため、今後も引き続き、団地造成事業を検討していく必要があります。

また、起業を目指す人材に対しての情報の提供、相談窓口の強化が必要です。

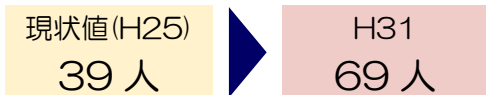


目指すまちの姿

◆ 企業誘致の推進により、地域経済の活性化や雇用の創出、活発な企業活動が行われるまち

《柱とする施策の指標》

- 住民の雇用拡大／
誘致企業の住民雇用者創出数



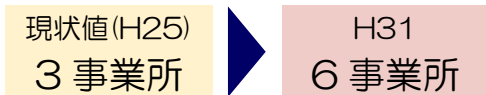
計画達成のために取り組むこと

- ① **工業振興助成事業**
一定規模以上の工場を建設する場合に、用地取得費の助成金、雇用促進奨励金などを交付します。
- ② **空き工場等活用助成事業**
町内の空き工場などの活用を行う事業者に対し、助成金を交付します。



《目指す指標》

- 誘致助成／
合併後の町内への誘致企業数（累計）



13 観光の振興

細施策 32 観光基盤の整備充実

観光施設の整備と活用の促進

観光ネットワークの構築

現状と課題

数多くの歴史・文化遺産や景観などの観光資源が存在しているものの、観光基盤が点としての存在でしかなく、観光客に長く滞在してもらえる工夫に乏しいのが現状です。

今後は、観光宣伝による県内外への情報発信を行うとともに、公共サインを工夫して配置することにより町内の観光施設を線で結び、観光客に長時間滞在してもらえるようなおもてなしが一層求められています。

また北陸新幹線長野・金沢間開業や舞鶴若狭自動車道、ホノケ山トンネルの開通により、歴史観光の新たな周遊ルートの設定が可能となるため、「歴史ルート」の設定も必要であり、「今庄宿プロジェクト」と「北前船歴史空間再生プロジェクト」の歴史観光拠点の連携を進めることも重要です。

公共の観光施設の運営に関して、現在一部施設を民間委託していますが、老朽化や多額の維持修繕費用を投入する現状のため、今後は施設の民間委託や整理合理化の検討が必要です。

町内の観光事業者による観光ネットワーク推進会議を構築し、観光資源を活かしたおもてなしの重要性を認識し、モニターツアーなどにより検証しながら、さらなる観光客の誘致に向けて取り組んでいます。また、越前海岸観光協会連合会や丹南広域観光協議会など近隣市町と連携し、ガイドマップの作成や出向宣伝など幅広く観光客の誘客推進を行っています。

今後は、平成26年7月の舞鶴若狭自動車道の全線開通を契機に、敦賀市など嶺南市町との連携が重要です。また、観光客が行きたい観光地とは「住民の地元愛が強い地域」という統計結果を踏まえ、住民の郷土愛を育む施策の実施が必要です。

目指すまちの姿

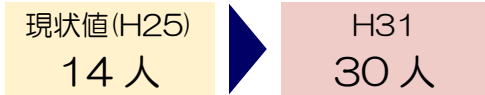
- ◆ 町の資源を活かし住民と来訪者にやさしい観光施設を整備するとともに、回遊性や付加価値を高め「また来たい」と思ってもらえるまち
- ◆ 地域がその良さを再認識し、来訪者に町の魅力を伝え交流を深めることにより、滞在客が増え、観光がにぎわうまち

《柱とする施策の指標》

- 入込客数
現状値(H25) 698,000人 → H31 774,000人
- 管理公社が運営管理する観光施設（民間委託含む）計11施設の入込客
現状値(H25) 439,000人 → H31 510,000人



● 観光ボランティア組織構成人数（累計）



計画達成のために取り組むこと

<観光施設の整備と活用の促進>

① 観光宣伝の充実（出向宣伝）

観光協会などと連携し、県内外に積極的な観光宣伝を行います。

② 北前船歴史空間再生プロジェクト

歴史空間を感じさせる景観整備、インフォメーション施設兼休憩所の整備をします。

③ 今庄宿プロジェクトの推進

都市再生整備計画（H26～H29）に基づく事業の推進主体として、地域住民で構成する今庄宿プロジェクト協議会の運営を支援するとともに、事業を協働で進めます。

④ 山海里温泉割引事業の継続

住民を対象に町の温泉施設などの利用について、割引事業を継続します。

⑤ 町外への情報発信の充実

ホームページ上での観光情報サイトの充実、関西・中京方面への出向宣伝および新聞広告等、情報発信を積極的に展開します。

<観光ネットワークの構築>

① 観光ネットワーク推進事業

町内観光事業者によるネットワーク推進会議が中心となり、観光資源を活かした観光客誘致を進めます（宿泊助成券、出向宣伝、観光施設利用割引券など）。

② 観光協会支援事業

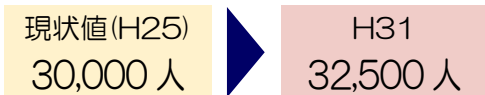
観光協会の組織強化のため支援を行います。

③ 観光ボランティア育成支援事業

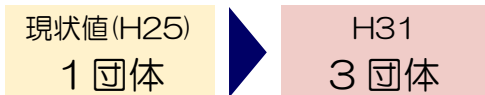
観光ボランティアの組織強化のため支援を行います。

《目指す指標》

● 観光施設の充実／宿泊客数



● 観光誘客の充実／
観光ボランティア組織数（累計）





現状と課題

観光ガイドマップやドライブマップやホームページ上への南越前町観光情報サイトの開設などにより、全国に南越前町のPR、観光情報の発信を行っています。さらに、スマートインターチェンジを開設した南条サービスエリア上下線において、南越前町の観光DVDを放映するデジタルサイネージ^{※1}を設置し、観光情報を発信しています。

今後は紙媒体を使ったPRだけでなく、映像媒体を活用したPRやモバイル端末などへのインターネットを利用したPRへの移行を強化するとともに、町の観光情報サイトを高速で広範囲な情報共有の場とするため、SNS^{※2}（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）機能の追加が必要です。

合併前から旧町村において実施してきたイベントを継承して行っており、一定の誘客数を確保しています。

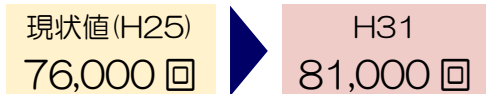
今後は、各種イベントについて事業の精査・検証に取組み、統合や規模縮小、廃止なども含め庁内での方針を早期に固めるとともに、住民の意見を反映し、住民自らが参加したい誇れるイベントの検討が必要です。

目指すまちの姿

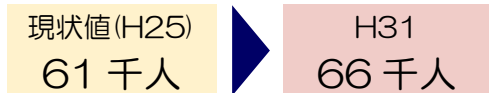
- ◆ **紙媒体やモバイル端末などインターネット環境を利用した情報発信により、町に対する興味関心が全国に広がるまち**
- ◆ **住民が誇れるイベントを開催し、来訪者が町の魅力を実感し将来的に住みたくなるまち**

《柱とする施策の指標》

- 観光情報サイトの閲覧回数



- 町主催3大イベント（そばまつり・はすまつり・夏まつり）入込客数



※1 デジタルサイネージ：ネットワーク化された電子看板

※2 SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)：狭義的には、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービス

計画達成のために取り組むこと

<観光PRの推進>

- ① **観光宣伝の充実（出向宣伝）（再掲）**
観光協会などと連携し、県内外に積極的な観光宣伝を行います。
- ② **観光PR推進事業**
観光素材を題材にしたポスターを作成するなど、町の魅力をPRする観光関係団体を支援します。
- ③ **北前船歴史空間再生プロジェクト**
観光ガイドの育成、観光ルート構築およびPR媒体の製作を行います。
- ④ **山海里PR隊の有効活用**
PR隊を有効に活用し、出向宣伝やイベントでの観光情報発信を行います。

<イベントの開催>

- ① **町主催イベントの実施**
観光情報発信の場として、そばまつり、はすまつり、夏まつりなどの観光イベントを開催します。
- ② **観光イベントの支援**
観光協会などが行う観光イベントを支援します。





未来の南越前町（南条小学校 4年 高木茉耶さん）